

疾患名

移植後巣状分節性糸球体硬化症（FSGS）再発

病気について

巣状分節性糸球体硬化症は、多量の尿蛋白をみとめ、ネフローゼ症候群となる病気です。小児期に発症するネフローゼ症候群の主な原因です。治療しても直りにくい事が多く、腎不全に至ることも多いです。この病気は、移植後にも再発し、再びネフローゼ症候群を示すことがあります。

治療について

食事での塩分制限および血圧や脂質異常に対する治療が行われます。また、再発前の免疫抑制薬に加えて、副腎皮質ステロイド薬、免疫抑制薬の追加あるいは増量して治療します。ネフローゼ症候群の状態が続けば、LDLアフェレシスを行います。

アフェレシス療法の適用とその実施

保険適用：あり

アフェレシス治療の種類：LDLアフェレシス

回数：保険適用となっているのは、薬剤による治療ではネフローゼ状態が持続し、血清コレステロール値が250 mg/dL以下に下がらない場合です。実施回数は、一連につき3ヶ月間に12回を限度として施行します。